

令和8年度 評議員会開催！支部の現状を話し合う



グループでの活発な情報交換



第157号

福島大学
人間発達文化学類
同窓吾峰会 会報

令和八年度評議員会は福島大学人間発達文化学類長の牧田実様をご来賓としてお迎えし、北は北海道から南は愛知まで、二十四支部の評議員の皆様が集まり、福島大学人間発達文化学類大会議室にて開催致しました。評議員会報告として、六点述べさせて頂きます。

一 支部未登録者への働きかけ

一昨年の県外在住者への「吾峰」定期購読の勧誘に引き続き、昨年は福島県在住者で支部未登録者を対象に同様の働きかけを行い、購読希望者の取りまとめを行いました。そこで今回は支部毎の購読希望者情報を提供いたしました。組織強化にご活用頂けるものと考えております。



同窓吾峰会長 野崎 修司

評議員会を終えて

二 記念大会について

令和九年九月には、創立百四十周年記念大会が福島で開催されます。福島支部と連携を取りながら準備を進めております。関連して、過去十年間の本会歴史をまとめるべく記念誌発行の準備にも入りました。

三 卒業生の進路について

人間発達文化学類令和七年度卒業生の就職状況です。卒業生総数二六五名。内、就職希望者二三八名。三月現在で就職者数二二八名で95・8%です。

公立学校教員の採用者は一一一名で、その内、福島県内の採用者は六八名で61%です。学級数が減少し教員定数が減少する中にあって、就職に就いた卒業生の数は、昨年より若干増



令和8年度 評議員会

2



寄贈本のコーナー

5



卒業・入会祝賀会

10



研究奨励事業表彰式

11・12

加しています。全体では、卒業生の過半数が公務員や一般企業等に就職する傾向が続いています。地方公共団体や企業へ就職した会員の把握が課題となります。

四 本部歳入歳出について

教育学部への移行と共に、令和九年度の入学定員が現在より三十名程度減少します。金額にして約九十万円の減少となります。また、年々歳入が減少しております。同窓会としての新たな改善策を模索しております。

五 組織強化について

昨年度の郡山大会で山寺事務局長より「支部へ所属していない会員把握のため、各支部へ電子データを提供する」旨お伝えしました。要望された支部は、福島、安達、会津、愛知、新潟、岩手県、北海道の七支部でした。電子データを基に、まだの支部は、会員の

把握と支部組織強化に活用願います。また、新たな取り組みとして、年度途中ではありましたが、副会長の皆様にご地域の責任者をお願い致しました。各支部の困難状況を踏まえ、副会長と連携を取りながら、関係支部の組織強化や運営への助言・支援を行ってきたいと考えています。

六 評議員会の改革

各支部の現状から、組織強化のために情報交換が必要と判断し、今回は本評議員会で情報交換の場を急遽準備しました。時間が短く十分ではありませんでしたが、有効な時間だったと判断しております。次回は十分な時間を確保して臨みたいと思っております。

以上報告ですが、各支部と連携して乗り切りたいと思います。ご協力宜しくお願い致します。

令和八年度

吾峰会評議員会開催

支部運営上の課題について情報交換

令和八年度の評議員会は、五月十七日(日)に福島大学人間発達文化学類2階大会議室で開催された。

当日は、季節外れの真夏日に見舞われたが、北海道、岩手、宮城、愛知、福島各支部から、60名の参加があった。

開会に先立ち、永年勤続支部長への感謝状贈呈が行われ、3名の方が表彰された。(p4参照)

評議員会は、古閑事務局次長が進行し、野崎会長の挨拶の後、学類長の牧田実

第1回常任理事・理事会開催

令和八年度第1回常任理事・理事会が四月二十八日(火)に行われた。佐藤陽一理事を議長に選出して、令和七年度報告事項や令和八年度事業計画等について協議した。創立140周年に関わる事業として、第1回記念誌編集委員会



監事会



監事会開催

令和八年度の監事会が、四月十五日(水)に行われた。大堀満広、鈴木昭夫両監事により令和七年度一般会計、同特別会計の監査が厳正に行われた。



各グループからの発表



挙手による議事承認



牧田学類長あいさつ



野崎会長あいさつ



来賓あいさつ

人間発達文化学類長

牧田 実

同窓吾峰会のみなさまには、日頃より本学類に対しまして温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

福島大学は現在も改革の途上にあり、本学類も来年4月の教育学部への移行に向けて準備を進めているところ

です。同窓会、とりわけ評議員のみなさまには、実に四半世紀ぶり、正確に言うと22年ぶりとなる教育学部の復活をぜひ見届けて

いただきたいと思います。新しい教育学部では、福島県の教員になることを強く希望する学生のために「地域教員希望枠」を設け、

「福島県ならでは」の課題を抱える地域で教育実習を行ってもらうことを考えています。理念としてはたいへん意義のある取組だと自負しています。しかし、その一方で、宿泊や交通の面では、まさに「福島県ならでは」の現実的な課題に直面しています。こうした課題を一つひとつ乗り越えながら、

「福島県ならでは」の教員養成を実現していきたいと考えています。今後、同窓会の

みなさまのお力をお借りする場面も出てくるかもしれません。その際には、ぜひお知恵をお貸しいただければ幸いです。こうした取組を進めるなかで、あらためて感じているのは、大学というものは、在学中だけで完結するものではないということです。

卒業生のみなさまがそれぞれの場所で活躍され、その経験やつながりが、同窓会というかたちで大学へと戻ってくる。その循環のなかで、大学は支えられているのだと、あらためて感じています。とりわけ教員養成に関わる学類にとつては、卒業生のみなさまが現場でどのように活躍されているか、その積み重ねこそが、大学の教育の質を支えているのだと思います。

同窓会のみなさまとの関係は、単なる支援というよりも、ともに大学を支えるパートナーであると考えております。今後も、そうした関係を大切にしながら、学類としての役割を果たしてまいりたいと思います。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私からの挨拶といたします。

今、学校現場では…

デジタル化の波



福島県小学校長会会長
福島市立三河台小学校長
笠原 聡美

GIGAスクール構想の進展をはじめ、今、学校現場には急激なデジタル化の波が押し寄せています。この変化は、これまでの教育スタイルを大きく変える挑戦であると同時に、福島県未来を担う子どもたちの可能性を無限に広げる大きなチャンスでもあります。

【児童の学びの視点から…個別最適な学びとリアルな体験】

今や子どもたちにとって、タブレット端末はもはや文房具の一つのような存在です。デジタルツールの活用は、児童一人ひとりの進度・関心に応じた「個別最適な学び」を可能とする



笠原 聡美

ひとつの手段です。さらに、教室への入室が難しい児童が、別室からオンラインで授業に参加し、学級の仲間と生き生きと意見を交わすことも日常の風景となつていきます。自然災害や熊対応での臨時休業の際にも、オンラインの授業を実施して、子どもの学びを止めない取組もしています。先日実施された4年生以上の「ふくしま学力調査」では、CBT(Computer Based Testing)方式が導入され、子どもたちがコンピュータに解答を入力する姿も見られました。一方で、学校だからこそできる「リアルな体験」の価値も忘れてはならないと思つています。デジタルという便利な道具を使いこなしながらも、友達の温もりを感じ、自然に触れるといった五感を使う体験とのバランスを、子どもたちの目線に立って最適化していくことが、今まさに私たちに求め

られています。
【教職員の視点から…協働と働き方改革への挑戦】

このデジタル化の波を支える教職員もまた、一歩前へと歩みを進めています。導入当初の戸惑いを乗り越え、現在は授業の質の向上はもとより、教職員の「働き方改革」を推進する原動力となつていきます。職員会議のペーパーレス化やクラウドを活用した情報共有により、校務の効率化が着実に進んでいます。新しい技術への適応には不断の努力が必要ですが、教職員は「子どもの笑顔のため、より良い授業のため」に、互いに同僚性を発揮してスキルを磨き合っています。

実を言えば、かく言う私も自身が、このデジタル化の波に最も溺れそうになつて一人です。しかし、私たちが立ち止まるわけにはいきません。目の前の子どもたちが、将来「AIに代替される人」ではなく、「AIに何をさせるかを決め、自ら人生の方向性を示せる人」となれるよう、不易流行の精神で教育を進めてまいりたいと思っています。吾峰会の皆様には、今後変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願いいたします。

今、学校現場では



福島県中学校長会会長
福島市立福島第一中学校長
佐藤 厚生

今、学校現場では大きな変革の時代を迎えています。社会の変化や少子化、デジタル化の進展などを背景に、教育の在り方や学校の役割も大きく変わろうとしています。

その一つが、福島県立高等学校入学者選抜におけるWEB出願システムの導入です。昨年度より、志願者はスマートフォンやタブレット、パソコンを利用して出願や出願先変更を行い、入学検定料についても、クレジットカード決済、コンビニ決済、ペイジーによる納付になるなど、入試事務は大きな転換期を迎えました。実施後のアンケートでは肯定的な意見が多く、導入の成果が感じられる結果となりました。今後は、入試事務に関わる提出書類等についても、さらにデジタル化が進められる見通しであり、受験生や保護者の負担軽減、さらには学校現場における業務改善につながるものが期待されています。

また、部活動を取り巻く

佐藤 厚生

環境も大きく変化しています。県中学校体育大会では、令和10年度以降、水泳や体操など8競技を削減するとともに、その他の競技についても規模を見直しながら開催する方向で検討が進められています。背景には、生徒数の減少や部活動の地域展開があります。合同チームや地域クラブ活動による参加も広がる中、持続可能な部活動の在り方について、学校だけでなく地域全体で考えていく時代となつていきます。

さらに、近年、大きな課題となつているのが不登校生徒の増加です。令和6年度の資料によると、全国の中学生の不登校生徒数は21万6千人を超え、高止まりの状況が続いています。本県においても同様の傾向が見られます。そのような中、文部科学省では「CO-COLOプラン」を打ち出し、不登校により学びにアクセスできない子どもたちをゼロにすることを目指しています。学びの多様な学校や校内教育支援センター

等の整備が進められており、本県においても昨年度、初の学びの多様な学校となる「棚倉中学校分校」となる「棚倉町立高野小学校内に開室し、その取組に注目が集まっています。また、民間のフリースクール等を利用する生徒も増加しており、多様な学びの場をどのように保障していくかが重要な課題となっています。

加えて、GIGAスクール構想第2期も本格化しています。これまでのICT環境整備中心の段階から、今後は整備された機器をどのように効果的に活用し、学びの質を高めていくかが求められています。ICTは技術革新のスピードが非常に速く、次々と新しい機能やサービスが登場します。そのため、教員にも授業で活用するための知識や技能の向上が求められており、研修の充実が必要不可欠となっています。学校現場では数々の課題が生まれています。その都度課題に向き合い解決してきました。これからの新しい時代に対応した学校づくり、皆様のご指導ご支援をお願いいたします。



感謝状受賞の小野寺氏

永年勤続支部長 感謝状贈呈 評議員会にて表彰

令和八年度評議員会開会前に、長年にわたり支部長を務めていただき、感謝状の贈呈を行いました。東白川支部と大河原支部は新支部長様へ代理受領していただき、岩手県支部からは前支部長の小野寺寛様をお迎えし、感謝状を贈呈いたしました。

受賞者は次のとおりです。

前東白川支部長 奥貫 洋様 (6年間)

前大河原支部長 鈴木 登志彦様 (6年間)

前岩手県支部長 小野寺 寛様 (16年間)

長い間本場にありがとつございました。



前東白川支部長 奥貫 洋

この度、支部長を退くにあたり野崎会長様から感謝状や記念品を頂戴しまして恐縮いたしております。

令和元年度から六年間、東白川支部長を務めさせて頂きました。思えば会員の高齢化と地域の過疎化が進み、児童生徒の急激な減少で学校数も減少してまいす。そんな中にあつても会長様をはじめ、多くの方々からのご指導とご協力での運営がなされたものと自負しています。改めてお礼を申し上げます。

さて、不幸にして本県も東日本大震災に遭遇しました。非常事態の状況下、本学も教育復興事業に取り組みました。教育シンポジウムの一つとしてラウンドテーブルも開かれています。私も参加し、記憶に残っていることがあります。出席した若い先生の悩みが解消されたという報告です。

子どもが安心して楽しく自己実現できるところが学校です。今、それぞれの教室で行われている授業を想い起こしています。

(昭44卒)



前大河原支部長 鈴木 登志彦

前任の高橋宏一先生から支部長を引き継いだのは、元号が令和に変わるほんの少し前の平成三十一年二月のことでした。次の年の令和二年にはコロナ禍となり、支部として3年ごとに開催している総会も中止にせざるを得ませんでした。支部長を仰せつかった六年間、ほとんどコロナ禍で、会議等もイレギュラーな開催になりました。そのような中でも、支部運営が滞ることなくできたのは、古積裕一副支部長さん、鈴木哲也事務局長さんをはじめ役員の方々を支えていただいたお陰です。本当に感謝しております。

令和七年二月に6年ぶりに支部総会が開催され、古積先生に新支部長をお願いすることになりました。大河原支部の課題の一つが、会員に若手教員がいないうこととです。令和六年十月の河北新報に、福島大に教育学部が復活し、教員免許取得が必修になるとの記事が出ました。教育学部になるのは来年度からなので、今後、大河原支部管内に勤務される若い先生方も出てくるのではと期待しています。福大吾峰会の益々の発展をご祈念申し上げます。

(昭55卒)

前岩手県支部長

小野寺 寛

二〇〇九年(平成21年)五月三十日、吾峰会会長服部秀文氏、学長今野順夫氏のご臨席を賜り、岩手県支部を設立。

四国四県に匹敵する広い県内各地から、会員96人中54人が出席。

オープニングは学生歌「今日の世紀に」の斉唱。会員の心が一つになり、同窓の喜びと誇りを高らかに歌い上げる。遙か遠い存在の母校が、もつと身近に感じられる一瞬であった。

事業計画は会員がメリットを感じるようなものにした。①母校の施設見学②講演会の開催③会員の拡大④吾峰岩手の発行等。

支部設立から16年間に「福島を訪ねる旅」を4回実施。

葵寮跡地にある吾峰会本部を訪問。会長や熊田部長・梅津事務員さんのお迎えをいただく。深謝。参加者からは、期待に満ちた鼓動が伝わってくる。

女性は一階から阿武隈川の流れや渡利の街並みを眺め、その頃の思い出に浸っている。

昼食はお馴染みの学生食堂で。学生が心を弾ませて会話を楽しんでいる。この頃に戻れたら...と羨ましくなる。

同窓のご縁に感謝し、絆を深め新たな峰に向かって活動充実させて行きたい。

(昭35卒)



皆様からのおたより

前略

同窓会報155・156号を送っていただきありがとうございます。ありがとうございました。

「街なか道遥」の昔の電車通り懐かしく拝見いたしました。女子寮「葵寮」(舟場町)からはいつもの通学路でした。角田文代さんの文章の中に「藤棚コーラス」のことが載っていました。

が、昼休み青空の下、ロシア民謡など教えていただいたことが思い出されました。歌の上手下手なく皆で声を合わせて歌うことは、学生同志の一体感が生まれるとても楽しく、キャンパスライフの忘れられない一ページとなっております。

大学は移転したけれど、板張りの教室で床は砂でじやりじやりとした埃っぽい空間が私たちの青春だったのです。

会報編集の方々ご苦労様です。

(昭35国語科卒) 草々



(昭35国語科卒)

156号に掲載しました松淵昂様よりメールをいただきました。

昨日、配達されました。これまでで、一番ぐらいよい内容かと、思います。私の投稿記事と写真も掲載され、感謝しています。

今回、良いと思ったのは、新企画「街なか道遥」と「皆様からのおたより」の拡大です。個人的には、岩手出身なので、6ページの岩手日報の掲載と8ページの新支部長紹介記事です。同じ号に岩手の3人も掲載されたことはありませんでした。

同窓会報は、多くの会員の声(投稿)が、どのくらいあるかによると思いますが、それは、反応でもある訳で、反応がなければ、読んでいいのか、どう思っているのか、分からないからです。

(昭41卒)

松淵様からは他にも会報編集に際しての改善について、いろいろご提案いただきました。編集委員一同勉強しながら、より良い会報発行に努めて参ります。ありがとうございます。



寄贈本の紹介コーナー

青少年赤十字の魅力

「気づきは突然に」

発刊に寄せて

藤田 伸朔

(昭37卒 福島支部)



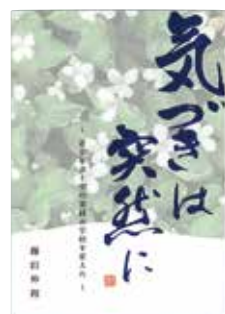
青少年赤十字について、吾峰会員の多くの皆さんはご存知のことだと思います。ただ、その魅力となるとどうでしょう。「知っているよ」の中身を訪ねて、その魅力を少しお話ししたいと思います。

ところで、福島県の中・高校全体の青少年赤十字加盟率は、全国平均の上位にあります。加盟は義務ではないのですが、加盟率が高いのは諸先輩の努力の賜物です。

しかし、乱暴な言い方になりますが、加盟が即実践に結びついているかどうかは、別のことなのです。わたしは、あえて自由意志と呼んでいますが、自校の教育にかかわるものとして青少年赤十字の理念を活かすかどうかは、指導者の意思にゆだねられているということです。学力のように評

価されるものではないので、概念として「自立・尊厳・奉仕」などのすばらしさの理解で止まっていた指導者や学校が多いのが現状ではないかと思っています。かつての自分がそうであったように、知ってはいましたが無関心、認識不足で退職間際まで過ごしていたのです。

最後の勤務校は、福島市立福島第一小学校でした。ここでの実践をまとめたのが表題「気づきは突然に」の本です。表題の主人公は私です。私にとって、強烈な鮮明な出来事をまとめたといえるようになったのは、令和5年の春でした。本文から、病院を出るとすぐ担任は「喜んでもらえてよかったね」と代表に声をかけると、「はい、よかったです」先生の手を借りないで、自分たち



で全部やり遂げることができて」と言ったということです。

子どもたちが話した、どの部分に衝撃を受けたのでしょうか。私にすれば思いもしなかったことだったのです。態度目標「気づき、考え、実行する」を具現して示してくれた子どもの笑顔に一本取られたのです。

子どもの「気づき」を生かすのは指導者なのです。実践の内容は本に譲るとして、残された在職の3年間は充実した思い出に詰まっています。実践は思いつくところから手を付けたという反省はありますが、学校が変わったという実感を持ったことは事実です。退職して26年になります。青少年赤十字の魅力を記述したものです。ご一読いただけることを願って。

鈴木 淑子 (昭30卒)

「風の記憶」



前略 先日は「会員名簿」をお贈り下さいまして有難うございました。数年前になりますが、会報「見ました聞きました」欄で取り上げていただいたエッセイストです。新聞掲載を辞退したあと「県現代詩人会」、文芸誌「自由人」、退職マスコミ者による雑誌「マスコミOB文集」などで執筆中です。

九〇歳を記念して「風の記憶」というエッセイ集を出しました。日頃心にかけて下さった吾峰会の事務局の方々に一冊ずつ差し上げたと思います。このエッセイ集は「読みやすい、一気に読んだ」という方々が多く、ぜひご覧いただきたいと思います。

今日、会報が届いて懐かしい方の名前や写真を拝見しました。私も現役引退などとは思わず、もう少しがんばってみます。では

高澤 正男 (昭62卒)

「表現者を育てる授業」

中学校国語実践記録



風詠社 2023年9月
中学校の国語教師として、20年に及ぶ実践をまとめたものです。若い国語の先生方にとって、灯台や羅針盤となるものを目指しました。

「人生は、燦爛と」

校長室だより100選



文芸社 2025年1月
2年間の高校校長、3年間の中学校校長時代に、毎日出していた「校長室だより」燦爛と」1000号の中から、100を選り抜ぎ、1冊のエッセイ集としてまとめたものです。

「人生を彩る6つのまなざし」

元校長が綴る日々を見つめ心を育てるエッセイ集



クエーサー出版
2026年1月

校長時代に引き続き、公立幼稚園の園長として、現在も毎日出している「園長通信」(こころ)の中から66編を選び、エッセイ集第2弾としてまとめたものです。

皆様からのおたより大募集!!

「学生時代の思い出」・「クラス会・サークル会の写真・記事」・「会報の感想」など、どしどしお寄せください。連絡先はP12へ

メール・郵便 お待ちしております



吾峰会HP ↑

二〇二六年度賀寿該当者 長寿おめでとつございます

今年度の賀寿贈呈該当者は、昭和六年四月〜昭和七年三月末日生まれの方です。

・江花 修様	・耶 麻	・遠藤 浩寿様	・福 島	・安藤 智子様	・郡 山	・近内 昭夫様	・福 島
・山縣アサコ様	・西白河	・円谷 誠様	・いわき	・西山 隆雄様	・双 葉	・渡辺 梅治様	・福 島
・畠山 栄子様	・西白河	・高場 久雄様	・安 達	・千葉 茂様	・安 達	・大竹 秀雄様	・安 達
・市川 春夫様	・郡 山	・玉野 憲一様	・双 葉	・渡辺 十二様	・安 達	・佐藤 貞夫様	・伊 達
・高野アヤ子様	・郡 山	・石川キヨイ様	・東白川	・高橋マサ子様	・福 島	・黒澤源之助様	・郡 山
・渡辺 重子様	・双 葉	・桑折 岩夫様	・相 馬	・小豆畑清種様	・岩 瀬	・渡辺 育也様	・双 葉
・渡辺 宣様	・福 島	・盛 華世子様	・福 島	・菅野 定子様	・安 達	・齋藤 右様	・福 島
・安田 良廣様	・石 川	・三瓶 良三様	・郡 山	・森 クミ様	・福 島	・本田 勇三様	・福 島
		・池田吉重郎様	・郡 山	・佐藤 光代様	・山 島	・今野 末治様	・双 葉
		・橋本 道雄様	・会 津	・小室 昭様	・福 島	・穴澤 契様	・安 達

◎遠藤 忠藏様(福島)

教員生活では同僚、保護者、地域の方々の支援、協力が今でも心に残っているそうです。元気の源は、週1回取り組まれている身体づくりと海外勤務のお孫さんの活躍とのことでした。



◎菅野 吉衛様(いわき)

幼少期に祖父から言われた「健康には注意すること」との教えを守り、今でも適度な運動を続けていることが健康の秘訣と感じました。大学入学時のエピソード、教職中や退職後の出来事などたくさん伺いました。



◎穴戸 利明様(相馬)

「賀寿のお祝いをいただき、自分でも不思議なくらいです。今後は健康に留意して、もっと長く生きたい」とおっしゃっていました。



◎伊藤 集三様(いわき)

在職中は心臓の治療をしながらの勤務でしたが、退職後は痛みもなく元気な日々を送られています。以前は、画づくりに没頭され、展覧会を開いたりしていました。



◎長嶺 孝子様(会津)

生まれ育った南会津の学校を中心に勤務し、退職時も南会津でした。少し忘れっぽくなったと伺いましたが、とてもお元気そうでした。



◎酒井 秀子様(福島)

教員生活の一番の思い出は、へき地校での輝く子供たちや温かく支えてくれた保護者、地域の方々や豊かな自然です。元気の源は、優しい家族や施設の方々とのおしゃべりとのことでした。



◎三好 貞臣様(郡山)

現役の頃は田村郡内、退職後は郡山の自宅近くの小学校に勤務されました。山登りと写真を趣味として続け、県内外の山を巡り写真を撮っていたそうです。



◎猪俣 カツ様(伊達)

現役時代に生徒指導で生徒や保護者との対話を大切に、粘り強く指導したことで、生徒や保護者に感謝されたことがたくさんあり、今も忘れられないと語っておられました。



◎武田 タツ子様(安達)

お元気な様子で、にこにこしながら勤務していた当時のお話をされています。



◎畠山 栄子様(西島)

たいへん喜んでいただきました。旦那様もご健在で、お二人ともとてもお元気な様子で、栄子先生は散歩を日課にされているとのことでした。



◎市川 春夫様(郡山)

高校教員時代はバスケットボールの指導者として県大会で3連覇され、退職後も近隣の高校で指導をされていました。ご自身も教員チームで国体に出場され、今は毎週テニスをされているそうです。



◎高野 アヤ子様(郡山)

小学校教員時代は保健体育の免許を生かし、子どもたちと一緒にリズム活動や表現活動に力を入れ、退職後も幼稚園や小学校などに頼まれ表現活動を指導してられました。



◎渡辺 宣様(福島)

健康の秘訣は、現職の頃から子ども達と走って足腰を鍛えていたこと、ラジオ体操を毎日していること、好き嫌いなくなんでも食べることとおっしゃっていました。



◎安田 良廣様(石川)

教職に就いたのは戦後間もない頃で教師不足を若い教員が補っていました。戦中の混乱を生き延びてきた経験から、東日本大震災もコロナ禍もきつと乗り越えられと話しておられました。



「街なか逍遙」

気の向くままに散歩する



「街なか逍遙」③

改めて「喫茶店」を振り返る。「カフェ」なんて言わないぞ! 「サボイア」、「珈琲の街」もあったね。「丸上茶房」はどう? 昭和28年(1953)開店。スズラン通り(現パセオ通り)に「コーヒ」と名曲。あの頃、福大生や医大生のたまり場と聞いた。一杯のコーヒやクリームソーダでダベっていたよき時代でした。丸上茶

「街なか逍遙」④

福島市の駅前通りは、南側区画が再開発事業のため更地状態、おかげで駅前通りは日当たりが俄然いいのです。

あの頃、駅前から路面電車に乗ると、車掌が紐を引いてチンチンと出発です。昔の中合のところから直角に曲がって喫茶サボイアを見ながらまた直角に曲がります。北町で電車のすれ違いが終わったら出発。青果市場の前を通ると浜田町の大学はもうすぐです。水色の面長の電車を覚えていたでしょうか。

路面電車は、正しくは「福島交通軌道線」といった。



昭47年頃のスズラン通り

房は、その後移転してビアレストラン「ローゼンケラー」に。長く親しまれた

が閉店した。そして令和6年(2024)再オープンした。



現在はパセオ通りに改称

昭和46年(1971)4月に廃止。鉄道線は健在で、JR福島駅から飯坂温泉駅を20分で結んでいる。「いい電」と称している。こちらは、クリーム色と赤色のツートンカラー電車が懐かしい。



懐かしい「中合」の看板

昔



駅前通りは再開発中

今



日本銀行前を走る路面電車

昔

「我が家の花壇」

芦立 良喜(昭42卒 大崎支部)

毎年我が家の花壇や鉢植えの花や果実をスケッチし、年賀や暑中のご挨拶に利用。あれこれ30年も続いたでしょうか……。



花麒麟



ヤマユリ



チロリンランプ



金柑



花ナス



デンドロビウム



サフラン



センリョウ

仲間たちの「想い」発信⇄受信

顧問 齋藤正寛氏ご逝去

平成25〜28年度まで本会の会長をお務めいただきました。理事や事務局長を含めると16年もの長きに渡り、本会発展のためご尽力いただきました。本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

番号	支部名	支部長名	副支部長名	事務局	事務局長名	評議員名
24	山形	堀 泰治	矢口 勲	〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101 山形県立米沢興譲館高等学校 ☎ 0238-38-4741 FAX 0238-38-2531	猪俣 幸一	渡辺 俊三 小野 昭夫
25	千葉	活動休止中				
26	新潟	真柄 正幸	山本 武・桐生 春江	〒956-0011 新潟市秋葉区車場2-1-6 ☎ 0250-25-1750	金内敬太郎	真柄 正幸 金内敬太郎
27	愛知	山田 稔	齊藤 俊徳・大高 和人	〒452-0802 名古屋市西区比良4丁目288 ☎ 052-504-2920	盛 浩一	山田 稔 盛 浩一
28	岩手県	佐々木一郎	横田 一平・佐々木秀市	〒023-0401 奥州市胆沢区南都田字本木158 ☎ 090-7795-3911 FAX 0197-46-3911	高橋 佳文	佐々木一郎 高橋 佳文
29	北海道	市澤 豊	菊地 磯夫	〒063-0052 札幌市西区宮の沢二条1丁目 1-35-1102 ☎ 090-6269-7381 FAX 011-667-2165	児玉 佳範	市澤 豊 児玉 佳範

令和8年度 同窓吾峰会本部役員名簿

役職名	氏 名
顧問	服 部 秀 文
	千 葉 金之助
	峯 島 和 彦
	牧 田 実
会 長	野 崎 修 司
副 会 長	鈴 木 隆
	渡 部 裕 二
	島 義 一
監 事	大 堀 満 広
	鈴 木 昭 夫
常任理事	山 寺 精 吉
	古 関 明 善
	我 彦 武
	勝 見 五 月
	内 藤 良 行
	佐 藤 秀 雄
	川 崎 康 宏
	菅 野 諭
	山 縣 眞 二
理 事	飯 沼 信 一
	鈴 木 昭 雄
	塚 野 薫
	小 針 伸 一
	佐々木 義 通
	佐 藤 陽 一
	尾 形 慎一郎
	佐 藤 浩 哉
	丹 治 秀 樹
	佐 藤 浩 昭
	横 山 貴 英
	鳴 川 哲 也
	小 野 真 教
	菅 野 浩 智
	笠 原 聡 美

理 事	佐 藤 厚 生
	青 田 伸 一
	本 多 英 弥
幹 事	茂 木 巧
	菱 沼 明 美
事 務 員	梅 津 浩 子

役職名	氏 名
部 長	山 寺 精 吉
副 部 長	古 関 明 善
会 長	野 崎 修 司
部 員	我 彦 武
	勝 見 五 月
	内 藤 良 行
	佐 藤 秀 雄
	川 崎 康 宏
	梅 津 浩 子

役職名	氏 名
部 長	勝 見 五 月
副 部 長	菱 沼 明 美
部 員	塚 野 薫

役職名	氏 名
委 員 長	我 彦 武
副委員長	古 関 明 善
委 員	勝 見 五 月
	内 藤 良 行
	佐 藤 秀 雄
	斎 藤 義 弘

役職名	氏 名
部 長	内 藤 良 行
副 部 長	茂 木 巧
部 員	佐 藤 陽 一

役職名	氏 名
委 員 長	佐 藤 秀 雄
副委員長	寺 岡 弘 之
委 員	鵜 沼 秀 雅
	内 藤 百合子
	小 山 智恵子
	工 藤 裕 也
	遠 藤 嘉 人

役職名	氏 名
委 員 長	川 崎 康 宏
副委員長	馬 場 秀 之
委 員	菅 野 諭
	尾 形 慎一郎
	阿 部 洋 己

役職名	氏 名
委 員 長	菅 野 諭
副委員長	勝 見 五 月

令和8年度 同窓吾峰会支部組織一覽

(令和8年7月報告現在)

番号	支部名	支部長名	副支部長名	事務局	事務局長名	評議員名
1	福島	渋谷 朗	内藤 良行・福士 久子 高橋 正之・野木 勝弘 佐藤 陽一・柏谷 智也	〒960-1241 福島市松川町字南諏訪原31-1 福島市立松陵義務教育学校 ☎ 024-567-2042 FAX 024-567-5127	小林 将路	渋谷 朗 福士 久子
2	伊達	松浦 常雄	齋藤 徹雄・菅野 善昌 佐藤 みゆき	〒960-1771 伊達郡国見町山崎字東滝山16 ☎ 024-585-4565 FAX 024-585-4565	鈴木 昭夫	松浦 常雄 齋藤 徹雄
3	安達	小泉 裕明	菅野真智子・菊池 勇人 福本 隆・菅野 芳弘 日下部準一	〒964-0904 二本松市郭内一丁目1 二本松市立二本松北小学校 ☎ 0243-23-0029 FAX 0243-23-0012	福本 隆	小泉 裕明 福本 隆
4	郡山	大堀 満広	上杉 辰男・阿部嘉代子 相樂 正人・嶋 忠夫	〒963-8026 郡山市並木四丁目10 郡山市立大島小学校 ☎ 024-933-6761 FAX 024-922-9490	齋藤 博	大堀 満広 武藤 公夫
5	岩瀬	佐浦 雅明	古田 浩・古川 久枝 渡邊 真二	〒962-0816 須賀川市朝日田54 須賀川市立第三中学校 ☎ 0248-73-2377 FAX 0248-76-2141	面川 祐哉	佐浦 雅明 渡邊 真二
6	石川	蛭田 重経	富岡ケイ子・館 初浩	〒963-7808 石川郡石川町双里字川向165 石川町立石川中学校 ☎ 0247-26-2315 FAX 0247-26-3036	石沢 泰蔵	蛭田 重経 石沢 泰蔵
7	田村	佐久間光春	佐久間金治・菅野 正秀 佐久間周一	〒963-7759 田村郡三春町字大町157 三春町立三春小学校 ☎ 0247-62-3101 FAX 0247-62-3106	白石 修子	佐久間光春 白石 修子
8	西白河	北林 正紀	佐藤 正弘	〒961-0963 白河市日影2-8 白河市立白河第二小学校 ☎ 0248-23-3242 FAX 0248-22-1902	深谷 裕之	北林 正紀 浅賀 秀寿
9	東白川	永山 美雄	中島 一枝・矢吹 政徳 深谷 麻紀	〒963-6192 棚倉町大字棚倉字中居野33 棚倉町教育委員会学校教育課 ☎ 0247-33-7881 FAX 0247-33-3715	鈴木 雅人	永山 美雄 鈴木 雅人
10	会津	齋藤 幸男	橋本千賀子・渡部 隆一 大堀 昌弘・川井 孝寿	〒965-0875 会津若松市米代一丁目5-33 会津若松市立謹教小学校 ☎ 0242-28-2100 FAX 0242-29-3405	大越 辰哉	齋藤 幸男 大越 辰哉
11	耶麻	大堀 浄一	青山 邦夫・矢部 宥一	〒966-0806 喜多方市水上6868 喜多方市立第一小学校 ☎ 0241-22-2103 FAX 0241-23-1673	大堀 浄一	大堀 浄一 青山 邦夫
12	大沼	石井 幸雄	佐藤 信寛・滝沢 敬樹	〒969-6214 大沼郡会津美里町富川字上中川161-1 会津美里町立宮川小学校 ☎ 0242-54-2222 FAX 0242-54-2277	鈴木 正和	石井 幸雄 佐藤 信寛
13	河沼	小林 政昭	山内 聖子	〒969-6531 河沼郡会津坂下町字上口705 会津坂下町立坂下東小学校 ☎ 0242-84-3450 FAX 0242-84-1445	渡部 健	小林 政昭 山内 聖子
14	南会津	五十嵐利明	齋藤 修一・大竹 成子	〒967-0004 南会津郡南会津町田島字会下甲3316 南会津町立田島小学校 ☎ 0241-62-0042 FAX 0241-62-3220	栗木 孝直	五十嵐利明 齋藤 修一
15	いわき	金内 三郎	笹川 直樹・沢 宏一 小野 則夫・平子 宗司	〒970-8026 いわき市平字梅香町7-1 いわき市立平第二小学校 ☎ 0246-23-2413 FAX 0246-23-2414	渡邊 信貴	金内 三郎 渡邊 信貴
16	相馬	草野 正徳	飯塚 宏・村田 権一	〒975-0013 南相馬市原町区上町一丁目13 南相馬市立原町第三小学校 ☎ 0244-22-4141 FAX 0244-24-2069	鳥中 雪野	草野 正徳 鳥中 雪野
17	双葉	石井 賢一	笠井 淳一・松本 明美 和泉 克之	〒963-8861 郡山市鶴見坦3-5-6 (臨時事務局 松本事務局長宅) ☎ 090-4314-1933	松本 浩一	石井 賢一 松本 浩一
18	東京	島貫 金雄	荒木 俊夫	〒185-0014 東京都国分寺市東恋ヶ窪2-31-21 ☎ 042-321-2277	島貫 金雄	島貫 金雄 荒木 俊夫
19	仙台	伊藤 宗男	熊谷 和彦・吉田 利弘	〒982-0003 仙台市太白区郡山六丁目5-1 仙台市立東長町小学校 ☎ 022-248-0238 FAX 022-249-3285	我妻美知子	伊藤 宗男
20	大河原	古積 裕一	日下 嘉充・大沼 章 新山 博・林 恵美子 高橋 秀夫	〒989-0232 白石市福岡長袋字向ノ山45-26 ☎ 090-8614-9976	我妻 宏昭	古積 裕一 我妻 宏昭
21	栗原	小野寺俊幸	佐藤 新一・狩野 浩二	〒989-5351 栗原市栗駒中野大柳100 栗原市立栗駒中学校 ☎ 0228-45-2721 FAX 0228-45-2298	佐藤 一博	小野寺俊幸 狩野 浩二
22	本吉	内海 輝幸	荒川 進・齋藤 一	〒988-0183 宮城県気仙沼市赤岩泥ノ木13-1 ☎ 0226-22-5748	西城 敏幸	内海 輝幸
23	大崎 (旧古川)	井坂 亨	兵藤 正昭	〒987-0003 宮城県遠田郡美里町南小牛田 字石神53 ☎ 0229-32-3492 FAX 0229-32-3492	佐々木勝男	井坂 亨 佐々木勝男

母校 福島大学・人間発達文化学類だより

卒業・入会祝賀会開催
3/25



合唱部の美しい歌声



卒業生代表あいさつ

菅原麻由

私たちの大学生活四年間を振り返りますと、たくさんの方のおかげで、学びが詰まった充実した時間を過ごすことが出来たと感じています。

四年前、コロナ禍が徐々に緩和される中、私たちは無事に入學式を迎えることが出来ました。しかし、期待に胸を膨らませる一方で、新しい環境への不安を抱いていたことも、今でも

令和八年三月二十五日(水)、ウエディングエルティにて令和七年度同窓会主催の卒業・入会祝賀会が開催されました。この会は、卒業のお祝いと、同窓会峰会の正会員になるお祝いを兼ねて開催されております。

卒業生達は、友人や先生方と最後の語り合いを楽しみ、たくさん写真を撮っていました。学生歌の斉唱では、有志の合唱部員が数名前に出て、美しい歌声を響かせてくれました。最後は万歳三唱で、卒業生の新しい船出を応援しました。

鮮明に覚えていきます。

人間発達文化学類では、講義や教育実習を通して、多くのことを学び、人と向き合うことの大切さや責任の重さを実感しました。また、対面での授業を多く受講できたことで、同じ志を持つ仲間たちの多様な価値観や考え方に触れ、自身の視野を広げることが出来ました。

さらに、福島に根ざした課外活動やボランティア活動、サークル、部活動、アルバイトなどを通して、机上の学びだけでは得られない貴重な経験も多く積み重ねることが出来ました。豊かな自然や温かな地域の方々に恵まれた福島の地で、それぞれが学びを深めた実りある四年間でした。

そしてこの四年間、そばには常に温かくご指導くださる先生方や仲間の存在がありました。先生方には、日々の講義やご指導に加え、多くの時間を割いていただき、未熟な私たち一人ひとりに誠心誠意向き合っていたいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

また、共に学び、支え合ってきた仲間の存在は、私たちにとってかけがえのないものでした。互いに励まし合い、時に切磋琢磨しながら

ら過ごした日々は、何ものにも代えがたい貴重な時間です。同じ時間を共有できたことを、心より嬉しく思っております。

これから私たちは、それぞれ異なる道へと歩みを進めていきます。これから先、悩みや困難に直面することもあるかと思いますが、しかし、そのような時こそ、ここでの学びや経験を支えに、前を向いて歩んでいきたいと考えています。

また、この四年間で、これまで当たり前のようにならえてくれた家族の存在の大きさに、改めて気付かされました。その感謝の気持ちを胸に、これからは自立した一人の社会人として歩んでいきたいと思っております。

福島大学の卒業生としての自覚と誇りを胸に、それぞれの立場で社会に貢献できるよう努力を重ねて参ります。

最後に、これまで温かく見守り導いてくださった先生方や、ともに学んだ仲間、家族をはじめ、支えてくださった多くの方々に心からの感謝を申し上げます。ともに、同窓会峰会の益々のご発展をお祈りし、卒業生代表の挨拶とさせていただきます。



クラス代表紹介



牧田学類長祝辞



野崎会長あいさつ



最高の仲間たちとピース



先生方と一緒にパチリ



恩師を囲んで

【令和7年度学生表彰者】(敬称略)

団 体

- *混声合唱団 第77回全日本合唱コンクール東北支部大会 金賞
- *陸上競技部
- 男子 第76回東北地区大学体育大会 4×400MR 優勝
- 女子 第76回東北地区大学体育大会 女子総合 優勝 他

個 人

- *文化、芸術の分野で優れた業績をあげた学生
- 遊佐 明香利 第42回JPTAピアノ・オーディション東北地区大会 優秀賞受賞
- *スポーツの分野で優れた業績をあげた学生
- 鷺田 光祐 須田 愛香 (バレーボール)
- 菊池 航志 近藤 浄士 郷右近 美優 今 拓海 備前 武
- 廣嶋 真 福嶋 唯花 米澤 拓真 (陸上競技)
- *優れた学業成績を収めた学生
- 人間発達文化学類 村松 来美

令和七年度
学生表彰者一覧

コ ー ス 名・分 野 名	氏 名
教 育 実 践	奥田 敦也
心理学・幼児教育(心理学)	平井 佳子
心理学・幼児教育(幼児教育)	佐藤 葵生
特 別 支 援・生 活 科 学	高橋 瑞穂
芸 術・表 現 (音 楽)	佐藤真秀子
芸 術・表 現 (美 術)	島貫ももこ
人 文 科 学 (国 語)	田村 大輔
人 文 科 学 (社 会)	峯崎明日香
人 文 科 学 (英 語)	照井 正樹
数 理 自 然 科 学	鯉淵 真大
ス ポ ー ツ 健 康 科 学	猪瀬ころこ

クラス代表一覧

研究奨励事業

令和七年度最優秀賞に

郡山市立橋小学校

研究部長 内 藤 良 行

表彰式の開催

令和七年度同窓吾峰会研究奨励事業最優秀賞受賞者表彰式が、令和八年一月二十七日に開催されました。

令和七年度は、個人1件、団体8件の応募がありました。人間発達文化学類

の先生方に依頼し、専門的な見地から審査いただいた結果、郡山市立橋小学校の論文が最優秀賞に選ばれ、他の8件は優秀賞との評価をいただきました。(別表参照)

表彰式において、野崎修司会長より橋小学校草野節夫校長に賞状並びに副賞が贈呈されました。

その後、選考委員を代表して、牧田実人間発達文化学類長から講評をいただきました。

今回応募された研究実践は、授業改善に向けた組織的な取組、データやアンケートを用いた検証、地域や子供の実態を踏まえた教育内容の工夫など、「現場から生まれた研究」であることが明確に伝わるもので

あったこと。最優秀賞を受賞した橋小学校の研究は、「協同の学び」を軸に継続的かつ体系的に授業改善を積み重ねてきた点が特に高く評価されたとの講評をいただきました。

講評に引き続き、同じく牧田学類長より、今回応募された9件の研究成果が今後、各校内にとどまらず地域、さらには次の世代の実践へと引き継がれていくことを大いに期待するとの祝辞をいただきました。

橋小学校の草野校長からは、様々な教育課題、教育推進上の制約がある中、教師・教え方の在り方を確立することを求めた研究推進を通じて、子供・教師が学び合う集団として成長できたことが最大の成果であるとの謝辞がありました。なお、同校研究主任の渡邊志保教諭も同席されました。橋小学校の研究概要について、本会報の他に、人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要にも掲載されます。

なお、優秀賞の8件につきましては、各支部事務局を通して賞状と副賞が贈呈されました。

本年度の募集について

令和八年度も本事業は継続して実施いたします。応募票は、各支部事務局にあります。同窓吾峰会HPからダウンロードしての利用も可能です。本年度から、団体応募の場合、代表者名(校長)と応募責任者名を記載していただくこととなります。ご不明の点があれば、本部事務局までお問い合わせください。なお、本年度の締め切り日は、支部事務局九月二十四日、本部事務局九月三十日となっております。たくさんのご応募をお待ちしております。

(昭54卒 福島支部)

入賞作品・入賞者名

【最優秀賞】

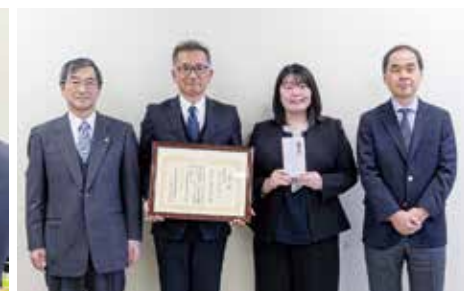
- 【団体】◎確かな学びを実現する橋の授業
～協同の学びの実現を通して～
郡山支部 郡山市立橋小学校 代表 渡邊 志保

【優秀賞】

- 【団体】◎確かな学力を身につけた心豊かなこころの育成
～読解力を育むリーディングスキルを活用した授業改善を通して～
郡山支部 郡山市立桜ヶ丘中学校 代表 佐々木初江
- 【団体】◎思いや考えを伝える表現力の育成
～ツールを活用した「書く力」の育成を目指して～
郡山支部 郡山市立緑ヶ丘中学校 代表 鈴木 榮
- 【団体】◎子どもの自主性、自立性を育む
～今と将来をつなぐ生き方教育(キャリア教育)を通して～
郡山支部 郡山市立桑野小学校 代表 横山佳津子
- 【個人】◎読む力を高め、共に学ぶ国語科の授業
～言葉にこだわった課題解決と学び合いのコーディネート～
福島支部 福島市立飯坂小学校 教諭 安斎香菜子
- 【団体】◎「わかる・できる」・学び続ける子どもの育成
福島支部 福島市立湯野小学校 代表 蓬田 孝夫
- 【団体】◎全ての生徒に分かりやすい授業づくり
～リーディングスキルの6つの視点に基づく学習指導を通して～
福島支部 福島市立岳陽中学校 代表 佐藤 秀克
- 【団体】◎自ら考え、つなげる生徒の育成
～生徒が課題とつながるための指導の工夫～
福島支部 福島市立大島中学校 代表 吉川 信夫
(応募責任者 荒畑景子)
- 【団体】◎学びに向かう力を高める学習指導の工夫
～非認知能力を育むための参照・共有と振り返り～
福島支部 福島市立吾妻中学校 代表 齋藤 幸紀



研究奨励事業表彰式



最優秀賞受賞

最優秀作品の概要

確かな学びを実現する橘の授業

～協同の学びの実現を通して～

郡山市立橘小学校

校長 草 野 節 生

一 はじめに

「まこととめて それぞれに まなぶすがたも うつくしく」

わたしたちが愛してやまない本校の校歌の一節です。ここに示されているのは、橘小学校で学ぶ子どもたちの理想像です。どの学年どの教室のどの授業でも、真理を追究する子ども一人一人が自分なりの発想、考え方や解決の見通しを自己に問い、学び合う友だちに問い、信頼する教師に問いながら課題解決に挑戦して、未知を拓く姿こそ美しい。わたしたちは、校歌を歌うたびに、学ぶ姿も

二 研究内容

わたしたちは、確かな学びを実現する授業に迫るための視点を次の三つに設定しました。

① あきらめずに追究を楽しむという「学習意欲」
② 教科等の特質に応じた学びの姿を追究する「教科の見方・考え方」
③ 聴き合う関係をもとにした「学び合い」

子どもたちが未知の課題と向き合い、「解決したい」という意欲をもち、教科の見方・考え方を働かせながら学び合うことで、橘小学校が目指す確かな学びが実現されると考え、日々実践に取り組みました。

また、子どもの学びの事実分析し、その成果と課題を授業改善に生かしました。

三 研究成果

○ 実践における子どもの姿から、自己・他者・学びの

の対象が密接に結びつき、三者の往還的な対話が行われていたことが明らかになりました。さらに、その姿が、学習意欲を生む課題設定や、各教科等の見方・考え方を発揮できる学びの場の設定、そして聴き合う関係をもとにした学び合いなど、確かな学びをめざす教師の日々の授業づくりに支えられていることも明らかになりました。

○ 実践記録から、教師は子どもの学びの事実から授業を省察し、教材研究を深めたり、参観した授業から学んだことを次の授業に生かしたりするなど、実践者としての自己を磨くための研究を重ねていることが分かりました。確かな学びをめざす授業づくりを通して変容し成長するのは教師もまた同様であり、子どもの学びと教師の学びの間に相関性を見出すことができた。

四 おわりに

わたしたち教師は、目の前の子どもたちのどのような姿をもつて「確かな学び」と言えるのかを常に問い直す必要があります。そのために、子どもの学びの事実から、教師自身が自己の授業をさらに深く、より多角的に省察する感性を今後ともいっそう高めていきたいです。

母校トピックス

三浦浩喜学長退任記念講演会が
3月28日(土) 福島グリーンパレスで開催



佐野新学長就任



令和八年四月から、福島大学学長に佐野孝治氏(経済経営学類長や副学長を歴任)が就任されました。

客員教授に池上彰氏就任

ジャーナリストの池上彰氏が経済経営学類の客員教授に就任しました。八月、九月に全学生を対象に開く夏期集中講座「国際理解のための現代史」で直接指導を行います。任期は来年三月まで。

就任の抱負で「福島大学の強みを伸ばしていく。文理の幅広い学問分野がそろった総合大学として果たす役割は大きい。東日本大震災から15年を経て、福島から未来を考える大学の実現に力を入れたい」と語られました。

客員教授就任は、池上氏が佐野学長の学生時代のゼミの先輩だった縁で実現したそうです。

四月六日に行われた福島大学入学式で講演が開催され、新入生にエールを送りました。

編集後記

○ 一五七号ができました。ご多忙中、寄稿して下さいました方々に感謝申し上げます。○ 新企画の「街なか逍遙」について、会員の方々から「懐かしい」「昔を思い出した」といった声を多数寄せ頂きました。当時の風情を表した描写と写真が学生時代の思い出を呼び起こしてくれたものと思っております。今回の「街なか逍遙」も昔と今の写真を掲載しました。学生時代から様変わりした街並みや思い出の場所を見比べながら時を遡り学生時代を思い起こされてはいかがでしょうか。○ 今年度の評議員会では、支部の現状等についてグループ協議を実施しました。活発な意見交換ができた貴重な時間を過ごせたようです。

会報「吾峰」の原稿や作品等の送り先

宛先・連絡先

福島大学人間発達文化学類 同窓吾峰会
〒960-8103 福島市舟場町4-30
福島大学街なかブランチ舟場
電話 024-529-7081
FAX 024-529-7082
Eメール gohou@ktd.biglobe.ne.jp